

部会での議論について

県民参画（利用促進）について

- 車ユーザーには、公共交通を使う具体的なシーンを意識したキャンペーン・周知が有効だと思う（例：スポーツ観戦の帰りに、食事を楽しむ場面など）
- その際、公共交通で行って帰る企画など、スポーツチームや地元の文化・商業施設、お祭りなどと連携ができるといい
- また、公共交通を使うハードルを下げるPRもまだまだ必要（パターンダイヤにより時間を調べずとも乗れるなど、気軽に使えるサービス・機能のPR）
- 県民の参画意識を育てるには、高校生や大学生など、若い世代が特に大事。若い世代の利用実態を調べた上で、投資・参画の取組みにつなげていくべき

サービス間の連携（MaaS等）について

- 「my route」について、複数路線乗り換え可能なチケット、目的地目線での魅力的なチケットを企画するなど関係者を増やして利用拡大を図りたい
- 「でんしゃ・バスまち店舗」は公共交通を使う1つのきっかけになる。対象店舗のさらなる拡大を期待している
- タクシー車両での告知、サイネージにおけるタクシー情報の発信など、タクシーと連携した周知・PRも有効ではないか

駅を中心としたまちづくり等について

- 駅を中心としたまちづくり、駅空間の活用、駅の賑わいづくりの創出が重要。沿線の学生や生徒の意見をよく聞いて進めてほしい
- 例えば、駅の待合室の椅子や空調、勉強スペースや充電環境の整備など、様々な意見を持っている
- また、ゲーム形式のイベントなど、鉄道をもっと気軽に使ってもらうための企画も生まれており、沿線市町村も協力してほしい
- 中間車両は会社の効率性・生産性ではなく、利用者の満足度、ウェルビーイングを高めることを目的とした象徴的なプロジェクト。ぜひ進めてもらいたい。

県民の満足度向上、利用促進について

- 利用者数等だけでなく、利用者の満足度など意識調査も今後は進めていきたい
- 車利用でありがちな渋滞リスクを下げることのできる公共交通のメリットの打ち出しが、利用促進につながるのではないか（バス専用レーンの遵守徹底など）

関係者間の連携等について

- 広域での他路線との連携やスポーツチームとの連携など、渾然一体とした取組みを進めていきたい
- 交通系ICカードの利用が好調であり、導入済みの他線とのサービス連携も今後進めていきたい
- 通学定期券の料金差については、自治体が定期券の負担軽減に取り組んでいる好事例をまずは勉強してみてもどうか

担い手の確保について

- 担い手確保の取組みは、今年度限りではなく、2年、3年と継続することが大事
- 若者や女性の採用が大事。環境整備や県外からの採用はお金やスキルが必要であり、行政の関与が必要
- 1社1社での対応には限界がある。人手不足にも「投資」・「参画」の観点から自治体や地域住民が関わって機運を醸成していく必要がある。
- 役割や時間帯を細分化し具体的にすれば、多様な人が担い手として部分的にでも参画できるようになるのではないか
例) 朝夕のスクールバス運行の合間にタクシー運行など

他分野との連携・協働について

- 地域にどんなニーズがあるのか、生活者目線で調べて他分野のサービスと繋ぎ合わせていくことが重要
- 生活者目線のテーマを軸にして、例えば、横串の組織を作るなど、他分野の連携を進めるには工夫が必要
- 各地域で進んでいる取組みについて、ノウハウを共有して
いってほしい